



外国出張報告

細菌寄生虫病研究チーム上席研究員 牛病理ユニット長 播谷 亮

目的・用務：独立行政法人国際協力機構メキシコ合衆国ハリスコ州家畜衛生診断技術向上計画
出張期間：平成18年3月23日～4月8日
出張場所：メキシコ合衆国ハリスコ州エル・サルト家畜疾病地域診断所

[用務の内容および成果]

独立行政法人国際協力機構(JICA)が実施しているメキシコ合衆国ハリスコ州家畜衛生診断技術向上計画の推進のため、家畜病理学の短期専門家として、2006年3月23日から4月8日まで同国に出張した。

まず、メキシコ合衆国とプロジェクトの概要について、ハリスコ州家畜衛生診断技術向上計画のホームページ(http://project.jica.go.jp/mexico/2451084E0/index_j.html)より引用する。メキシコは、メキシコシティを含む32の州からなる合衆国である。人口は1億3千万人で、日本と同等である。国土面積は1964万平方キロメートルで、日本の5倍強である。本プロジェクトが実施されているハリスコ州は、中央高原地帯に位置し、その面積は北海道よりやや広い。メキシコ合衆国の2003年における家畜飼養頭羽数は、肉牛2,931万頭、乳牛217万頭、豚1,462万頭、産卵鶏1億5,500万羽および肉用鶏2億5,900万羽である。ハリスコ州は、牛乳、豚肉、鶏卵および鶏肉の生産高で国内第1位、牛肉では第2位となっており、メキシコ随一の畜産州であると言える。しかし、輸出は殆ど行われておらず、畜産物もっぱら国内消費に回されている。理由は、家畜衛生条件が輸出基準に達していないことにある。メキシコは、国内から撲滅すべき疾病として、鳥インフルエンザ、ニューカッスル病、鳥サルモネラ症、豚コレラ、オーエスキー病、牛結核、ブルセラ病、麻痺性狂犬病、パベシア病の9種類を指定し、キャンペーン疾病と呼んで撲滅に向けて努力している。しかしながら、これらの疾病の撲滅状況が、ハリスコ

州では他州に比較し劣っている。そこで、JICAの協力を受けて、ハリスコ州エル・サルト家畜疾病地域診断所(職員約25名)をサイトとして(写真1,2)、2001年12月から5年間の予定で、「メキシコ・ハリスコ州家畜衛生診断技術向上計画」プロジェクトが実施されている。その結果、施設、機器および技術とも向上しており、疾病の撲滅に貢献していると考えられる。

次に今回の出張の任務であるが、プロジェクト実行計画書の「Immunohistochemical staining for Newcastle disease, tuberculosis and so on (ニューカッスル病、結核等の病原体の免疫組織化学的検出)」を達成することであった。そのため、免疫組織化学的検査法について講義し、手技について狂犬病罹患牛のホルマリン固定組織を使用して実技指導を実施した(写真3,4)。その際、免疫組織化学的検査で最も重要なことは、抗体の特異性の確認と前処理法の選択にあることを強調した。これ以外に、牛の結核、豚のカビ中毒を疑う症例等について、病理組織学的検査を実施した。さらに、牛と豚の病理学的検査方法、豚の急性疾病の病理に関して講演した。

[所感]

エル・サルト家畜疾病地域診断所職員と日本人専門家・調整員の方々が、使命感と責任感を持ち、明るく楽しく仲良く働いておられることに、深い尊敬の念を覚えた。本プロジェクトの成功を信じてやまない。



写真1 ハリスコ州エル・サルト家畜疾病地域診断所の外観



写真2 解剖室



写真3 免疫組織化学的検査の様子



写真4 顕微鏡観察の様子

